

川越城址及び初雁公園他関連年表

時代	和暦	西暦	川越城址				城下町	舟運	川越市内の主な出来事他
			藩主、在城年代、石高、役職	川越城・本丸御殿	三芳野神社	初雁公園及び周辺			
律令		700～		•	•	•	•	• 「人間郡衙」が置かれた • 武蔵国府と都を結ぶ「東山道武蔵路」が通り、交通の要衝だった	
	大同 2 年	807 年		•	• 三芳野天神社創立と伝う	•	•	•	
	天長 7 年	830 年		•	•	• 慈覚大師が無量寿寺（後の喜多院）を開く	•	•	
平安末 ～鎌倉		1068～ 1333 年		•	•	•	•	• 桓武平氏の流れをくむ秩父氏の一族が土着し、「河越氏」として鎌倉時代を通して幕府の重臣として活躍	
	永仁 4 年	1296 年		•	•	• 尊海が慈恵大師を勧請して无量寿寺を再興し、北院・中院・南院となる各房を建設（後の喜多院）	•	•	
室町	宝徳元年	1449 年		• 扇谷上杉持朝が川越に隠居、扇谷家の支配域	•	•	•	• 鎌倉公方と山内・扇谷両上杉氏による関東一円を舞台にした戦乱の時代の幕開け	
	長禄元年	1457 年		• 扇谷上杉持朝が太田道真・資長ら家臣に命じて川越・江戸に城を築く • 古河公方に対する最前線で、山内家に対して武蔵国内での支配を固める • 川越城と江戸城は同じ武蔵野台地の端部に位置し、台地特有の入り組んだ地形を活かした城だった	• 三芳野天神社に道灌菅公を合祀	•	•		
	文明 8 年	1476 年		• 山内上杉家家臣長尾景春による反乱により、両上杉家と古河公方の争いが複雑化 • 扇谷家が川越城を本拠とする	•	•	•	•	
	文明 14 年	1482 年		• 古河公方、両上杉家と和睦	•	•	•	•	
	天文 4 年	1535 年		• 北条氏綱が、扇谷上杉朝興が逃げ込んだ川越城を包囲	•	•	•	•	
	天文 6 年	1537 年		• 北条氏綱は川越城を攻め落とし、扇谷上杉朝定を松山城へ追いやり、北条為昌が城将となる	•	•	•	•	
	天文 15 年	1546 年		• 扇谷上杉朝定は今川義元らと連携し川越城を奪還するために大軍勢で包囲するが、北条軍に敗れ、扇谷上杉家は滅亡【川越合戦】	•	•	•	•	

時代	和暦	西暦	川越城址				城下町	舟運	川越市内の主な出来事他
			藩主、在城年代、石高、役職	川越城・本丸御殿	三芳野神社	初雁公園及び周辺			
室町	元龜元年	1570年		<ul style="list-style-type: none"> 川越城などの属城修築の石切りのため、石工左衛門五郎を武蔵に遣わす 	•	•	•	•	•
安土桃山	天正4年	1576年		<ul style="list-style-type: none"> 大道寺政繁、北条氏の命により、川越城を修築する 	•	•	•	•	•
	天正18年	1590年	酒井家 酒井重忠 1590～1601年 10,000石	<ul style="list-style-type: none"> 前田利家らの大軍により川越城が開城、酒井重忠が川越に入封 	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 川越の城下町の基礎がつくられはじめる 	•	•
	天正19年	1591年		<ul style="list-style-type: none"> 酒井重忠が川越連雀衆に新宿の諸役免除の特権を付与 	•	•	<ul style="list-style-type: none"> れんちゃく町（後の江戸町）に新宿をとりたてる 	•	•
江戸		1603年～		•	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 上級の武士は城の近くに、離れるに従って中・下級の武士となり、街道筋には足軽屋敷を配置 大名の家臣団の規模により武家地の領域に変動があり、武家地は南部の川越街道沿いに拡大 	•	•
	慶長14年	1609年	酒井家 酒井忠利 1609～1616年 20,000石 留守居	<ul style="list-style-type: none"> 酒井忠利が川越に入封 	•	•	•	•	•
	慶長15年	1611年		•	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 酒井備後守忠利に工事を命じ、仏蔵院北院を喜多院と改める 	•	•
	慶長16年	1612年		•	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 徳川家康の信任を得る天海僧正が喜多院の住職になる 	•	•
	元和3年	1617年		•	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 家康の遺骸を久能山から日光へ運ぶ途中、喜多院で法要が営まれる 	•	•
	元和元年～ 元和10年	1615～ 1624年	酒井家 酒井忠利 1616～1619年 27,000石	<ul style="list-style-type: none"> 『新編武蔵風土記稿』にいくつかの寺が城下の外縁部に移設 酒井忠利が川越城の拡張整備に着手 	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 酒井忠利が城下町を整備 	•	•
	寛永元年	1624年	酒井家 酒井忠利 1619～1627年 37,000石	<ul style="list-style-type: none"> 本丸御殿は、徳川家光が鷹狩りなどで訪れた際の休憩や宿泊のための施設「御成御殿」であったと推測 	<ul style="list-style-type: none"> 三芳野天神社を酒井忠勝が幕命により造営 	•	<ul style="list-style-type: none"> 酒井忠利が足軽町を割り付ける 	•	•
	寛永2年	1625年		•	<ul style="list-style-type: none"> 三芳野天神社に天海遷宮を仕まつる 	•	•	•	•
	寛永4年	1627年	酒井家 酒井忠勝 1627～1632年 80,000石 老中（のちに大老）	<ul style="list-style-type: none"> 酒井忠勝が武蔵野国深谷城より川越へ入封 	•	•	•	•	•
	寛永5年	1628年		<ul style="list-style-type: none"> 酒井忠勝が江戸城修築に際し、安藤右京進と吹上門虎口の構造を命じられる 	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 川越氷川神社の社殿を修復・造営 	•	•

時代	和暦	西暦	川越城址				城下町	舟運	川越市内の主な出来事他
			藩主、在城年代、石高、役職	川越城・本丸御殿	三芳野神社	初雁公園及び周辺			
江戸	寛永 10 年	1633 年	酒井家 酒井忠勝 1632～1634 年 100,000 石	• 酒井忠勝二十三か条の郷中法度を発する	•	•	• 川越北町の豆腐屋より出火し、南町の両側、薬師堂などが類焼 • 仙波東照宮建立	•	
	寛永 12 年	1635 年	堀田家 堀田正盛 1635～1638 年 35,000 石 老中	• 堀田正盛が川越藩主となる	•	•	•	•	
	寛永 13 年	1636 年		•	•	•	• 堀田正盛が川越氷川神社の鳥居を建立	•	
	寛永 15 年	1638 年	• 大火により城と城下町の大半(1/3以上)を消失、喜多院・東照社などが類焼	•	•	• 大火により城と城下町の大半(1/3以上)を消失、喜多院・東照社などが類焼 • 3代将軍家光が堀田加賀守正盛に命じて復興にかけ、喜多院へ江戸城内・紅葉山から客殿、書院などを移築 • 喜多院二重多宝塔建立、喜多院大堂が再興	• 新河岸川(当時は内川)沿いの寺尾村五反田が荷上げ場として使用	•	
	寛永 16 年	1639 年	松平(大河内)家 松平信綱 1639～1647 年 60,000 石 老中	• 松平信綱が武蔵野国忍城より川越へ入封 • 松平信綱が川越藩主となり、川越城の拡張を進める • 武家地は城の近くに上級の家臣、城下の出入り口の街道筋に足軽組屋敷を配置 • 標高の高い西大手門周辺に水が回らなかったため、西大手門に近い屋敷曲輪の辺りの水堀は空堀 • 新たに追手曲輪、田曲輪、新曲輪等を加えて整備 • 城内には富士見櫓、虎櫓、菱櫓の3つの櫓と中ノ門等の13の門があった	•	•	• 松平信綱が城下の町割の整備を進める	•	
	寛永 17 年	1640 年	•	•	•	• 仙波東照宮を再建(現在の社殿)	•	•	
	寛永 18 年	1641 年	• 松平信綱が日光東照社普請奉行となる	•	•	• 松平信綱が領内の堤へ竹・杉を植え道路を改修	•	•	
正保 4 年	1647 年	松平(大河内)家 松平信綱 1647～1662 年 75,000 石	• 松平信綱が1万5千石加増される	•	•	• 高沢町分、鉄砲場・御家中屋敷となる、多賀町分、町同心屋敷となる、志多町分、牢屋敷となる • 町人地は十ヶ町四門前といい、商人町(上五ヶ町)および職人町(下五ヶ町)の十ヶ町と四つの門前町で構成し、幕末まで踏襲	•	•	

時代	和暦	西暦	川越城址				城下町	舟運	川越市内の主な出来事他
			藩主、在城年代、石高、役職	川越城・本丸御殿	三芳野神社	初雁公園及び周辺			
江戸	慶安元年	1648年					江戸町裏通り堀となる、江戸町分大部屋裏通り堀となる		
	慶安2年	1649年			三芳野天神社に信綱天神縁起奉納				大地震が発生
	慶安3年	1650年		城の改修工事を開始					
	慶安4年	1651年							將軍家光が没し、堀田正盛らが殉死
	承応元年	1652年		川越城惣廻りの土手を築く			川越多賀町の時鳴鐘の新鑄成る		
	承応2年	1653年		川越城大手門が建つ			志多町分、川端土手となる 大雪被害のため、川越藩から川越町内へ1,000両の拝借金を下す	川越町人榎本弥左衛門が新河岸川を使って江戸から供養塔を運ぶ	
	承応3年	1654年		大雪により3つの城門が倒れ、普代奉行の堀江忠右衛門が圧死			仙波東照宮並びに天神修覆される		大雪により川越藩領全域で9,500軒が倒れる被害
	明暦2年	1656年		川越城の門が大風により破損 城の改修工事完了 「新曲輪」や「帯曲輪」と呼ばれた本丸東側及び南側の曲輪が造られ、近世の川越城が完成 「御城中惣坪」46,143坪（公屋敷、堀幅を除く）、うち本丸8,025坪、二ノ丸2,074坪、三ノ丸5,970坪で、城内には富士見櫓をはじめ、虎櫓、菱櫓の3つの櫓と13の城門があった（武陽入間郡川越御城内御分間野帳之写 慶応2年（1866））	松平信綱が江戸城二丸の宮を拝領し、三芳野天神社の外宮とする 三芳野天神社修復工事竣工（江戸御城内殿一軒拝領（乗海覚書）、棟札現存柿葺、二の丸御宮天神外宮とする（八坂記録））				
	万治3年	1660年					領内で140万本を超える植樹を行う		
	寛文元年	1661年			三芳野天神社の鐘が完成		松平伊豆守信綱を介して、4代將軍家綱にお願いし大仙波の地200石の祭資に供す		
	寛文2年	1662年	松平（大河内）家 松平輝綱 1662～1671年 75,000石	松平輝綱が川越藩主となる			志多町分、御家中屋敷となる		
	寛文4年	1664年						牛子河岸開設	
	寛文6年	1666年						岩淵村（現飯能市）次左衛門が上新河岸の半兵衛より河岸場付きの土地購入	
	寛文7年	1667年						古市場村の年貢米が、新河岸から川越藩の御用船で運ばれる	

時代	和暦	西暦	川越城址				城下町	舟運	川越市内の主な出来事他
			藩主、在城年代、石高、役職	川越城・本丸御殿	三芳野神社	初雁公園及び周辺			
江戸	寛文 11 年	1671 年			• 松平輝綱が仙波東照宮・三芳野天神社の修理を命じられる				
	寛文 12 年	1672 年	松平（大河内）家 松平信輝 1672～1694 年 70,000 石	• 松平信輝が川越藩主となる					
	延宝元年	1673 年					• 鳴町分、御家中屋敷道になる		
	延宝 8 年	1680 年		• 大風雨により被害が発生					• 入間川の流路を改修
	天和 2 年	1682 年						• 消失した川越藩の屋敷の建築資材を送る場として扇河岸開設	
	貞亨 2 年	1685 年						• 飯能町で集荷された炭が、古市場河岸から運ばれる	
	貞亨 4 年	1687 年					• 生類憐みの令により御鷹部屋を廃止		
	元禄 3 年	1690 年						• 幕府勘定奉行所による河岸の調査、「新河岸」「引俣河岸」の河岸場が記載される	
	元禄 5 年	1692 年		• 松平信輝が川越城内に八幡社を建立					
	元禄 7 年	1694 年		柳沢（松平）家 柳沢吉保 1694～1697 年 72,030 石 側用人	• 柳沢保明（吉保）が川越藩主となる • 大雨により城内画書が破損、城の修復を老中に願い出る				
	元禄 12 年	1699 年	柳沢（松平）家 柳沢吉保 1697～1702 年 92,030 石 大老格				• 上松郷町に三斎市がたつ		
	元禄 14 年	1701 年		• 水害により城中の堤などが崩落 • 將軍綱吉、保明の功績を賞し、松平の称号及び諱「吉」の字を許し、保明は松平美濃守吉保となる			• 川越地方の水害により、川越領内の田畠各五千町余が水損、流死者三人		
	元禄 15 年	1702 年	柳沢（松平）家 柳沢吉保 1702～1704 年 112,030 石		• 仙波東照宮、三芳野天神社、喜多院の修復を命じる			• 扇河岸 20 艘、上新河岸 22 艘、下新河岸 26 艘、古市場 5 艘、寺尾河岸 3 艘の川船	
	宝永 2 年	1705 年	秋元家 秋元喬知 1704～1711 50,000 石 老中	• 秋元喬知が川越藩主となる（5 万石）				• 上新河岸で船問屋が 7 軒、船が 17 艘あった	
	宝永 4 年	1707 年	秋元家 秋元喬知 1711～1714 年 60,000 石				• 蓮馨寺より出火		• 宝永大地震発生

時代	和暦	西暦	川越城址				城下町	舟運	川越市内の主な出来事他	
			藩主、在城年代、石高、役職	川越城・本丸御殿	三芳野神社	初雁公園及び周辺				
江戸	正徳 4 年	1714 年	秋元家 秋元喬房 1714～1738 年 60,000 石 奏者番	• 秋元喬房が川越藩主となる	•	•	•	•	•	
	享保元年	1716 年		•	•	•	• 享保の改革により御鷹部屋が復活	•	•	
	享保 2 年	1717 年		• 川越城下に火災発生	•	•	• 杉原町より出火	•	•	
	享保 3 年	1718 年		•	•	•	• 杉原町より出火、鳴町北側鍛冶町角迄、南側松郷町迄、猪鼻町、蓮馨寺門前、久保町、大工町、六軒町、鉦打町、中原町、瀬尾町、新田町、足軽町、二番町、三番町まで消失 • 鉦打町の南側武家屋敷跡に杉苗を植えて火除地とした • 大工町の武家地と町屋の境に火除のために杉を植えた • 川越行伝寺門より出火、蓮馨寺その他、被害は広範囲に及ぶ、川越松郷の煙硝調合所も類焼 • 川越石原袋町より出火、続いて鳴町より出火し、十軒程が類焼 • 川越高沢町大蓮寺門前付近より出火し、玄養坊焼失 • 町分や郷分(郷分町)の領域に大きな変化なし	•	•	• 大地震発生
	享保 7 年	1722 年		•	•	•	• 川越三番町足軽屋敷より出火し五軒焼く	•	• 浅間山噴火のため火山灰が降る	
	享保 8 年	1723 年		•	•	•	• 川越松郷六軒町より出火	•	•	
	享保 9 年	1724 年		• 城内勘定所より出火、勘定所は三ノ丸へ移転	•	•	•	•	•	
	享保 10 年	1725 年		•	•	•	• 川越行伝寺前より出火し、二十軒程が類焼	•	•	
	享保 11 年	1726 年		•	•	•	• 本町裏より出火し、喜多町・志多町残らず焼ける	•	•	
	享保 13 年	1728 年		• 川越領内各所で洪水が発生し、城内虎櫓が破壊	•	•	•	•	•	
	享保 14 年	1729 年		•	•	•	• 城下で火事が発生し、その後下町より見付に広小路を構える	•	•	
	享保 15 年	1730 年		•	•	•	• 松郷に新道(鉄砲町)開通	•	•	
	享保 16 年	1731 年		•	•	•	•	• 扇河岸 4 軒、上新河岸 6 軒、下新河岸 6 軒の船問屋が幕府から公認	•	
享保 18 年	1733 年	•	•	•	• 川越多賀町の鐘楼の上に火見櫓を建て継ぐ	•	•			

時代	和暦	西暦	川越城址				城下町	舟運	川越市内の主な出来事他
			藩主、在城年代、石高、役職	川越城・本丸御殿	三芳野神社	初雁公園及び周辺			
江戸	元文 3 年	1738 年	秋元家 秋元喬求 1738～1742 年 60,000 石	• 秋元喬求が川越藩主となる	•	•	•	•	•
	寛保 2 年	1742 年	秋元家 秋元涼朝 1742～1767 年 60,000 石 老中	• 秋元涼朝が川越藩主となる	•	•	•	•	• 暴風雨のため、川越藩領内各所で被害が発生（流失家屋 79 軒、水死者 24 人）
	宝暦 9 年	1759 年		•	•	•	• 川越多賀町より出火し、同心町、志義町、蓮馨寺門前、鉄砲町などが類焼	•	•
	明和 4 年	1767 年	松平（越前）家 松平朝矩 1767～1768 年 150,000 石	• 松平朝矩が川越藩主となる（15 万石）	•	•	•	•	•
	明和 5 年	1768 年	松平（越前）家 松平直恒	• 川越城の授受が行われる • 松平直恒が川越藩主となる	•	•	•	•	•
	明和 7 年	1770 年	1768～1810 年 150,000 石	•	•	•	•	•	• 川越藩前橋分領で火災が発生、焼失家屋数 600 戸余り
	安永元年	1772 年		• 江戸大火により、川越藩江戸屋敷を焼失	•	•	•	•	• 大暴風、川越藩領の破損家屋約 600 戸 • 川越藩前橋分領で出火、十か町 300 戸余り、寺 5 か所が焼失
	安永 2 年	1773 年		•	•	•	•	• 福岡河岸が幕府から公認	•
	安永 3 年	1774 年		•	•	•	• 川越志義町より出火、町方 379 軒、その他郷分では 168 軒が焼失	•	•
	安永 4 年	1775 年		• 藩は引き続き大火の手に困窮する	•	•	• 川越松郷六軒町より出火、30 軒余りが焼失	• 古市場河岸が幕府から公認	•
	安永 5 年	1776 年		•	•	•	• 仙波東照宮領で出火するも、大事に至らず鎮火	• 積荷をめくり河岸問屋と川越町人とで争う	•
	安永 7 年	1778 年		•	•	•	• 川越上松江町より出火、下松江町、志義町、蓮馨寺門前など 71 軒が焼失	•	•
	安永 8 年	1779 年		•	•	•	• 川越志義町より出火、侍・足軽屋敷 790 戸、町屋 209 戸、寺 2 か寺などが焼失	•	•
	天明元年	1781 年		•	•	•	•	• 川越五河岸として、共通の運賃を定める	•
	天明 3 年	1783 年		• 大風雨により赤間川が増水し、家中組屋敷に浸水被害が発生	•	•	•	•	• 浅間山代噴火、川越藩前橋分領に被害が発生
	天明 4 年	1784 年		•	•	•	•	• 川越五河岸と川越町人が、舟運の運営規則を取り決め	•
天明 5 年	1785 年		• 富士見櫓の修復開始（修復中は武具方より番人を置く）	•	•	•	•	•	

時代	和暦	西暦	川越城址				城下町	舟運	川越市内の主な出来事他
			藩主、在城年代、石高、役職	川越城・本丸御殿	三芳野神社	初雁公園及び周辺			
江戸	寛政 2 年	1790 年		•	•	•	• 大地震、仙波東照宮の屋根が破損	•	•
	享和元年	1801 年		• 川越城普請上棟式を実施	•	•	•	•	•
	文化 5 年	1808 年		•	•	•	•	•	• 川越藩前橋陣屋の牢から出火し、入牢者 14 人が焼死
	文化 7 年	1810 年	松平（越前）家 松平直温 1810～1816 年 150,000 石	• 川越藩、相模沿岸警備の任を解かれる • 松平直温が川越藩主となる	•	•	•	• 川越五河岸と川越町人が、積荷の輸送をめぐり争論	•
	文化 13 年	1816 年	松平（越前）家 松平斉典 1816～1841 年 150,000 石	• 松平斉典が川越藩主となる	•	•	•	•	•
	文政 3 年	1820 年		• 川越藩、再度相州海岸警備を命じられる	•	•	•	•	•
	文政 5 年	1822 年		• 川越藩、房州沖へ異国船渡来につき、川越より相模へ人数を出す	•	•	•	•	•
	文政 6 年	1823 年		• 松平斉典、藩財政の窮情を訴え家臣に財政を公開	•	•	•	•	•
	文政 7 年	1824 年		• 川越藩、財政再建のため番組を六番より三番に半減する	•	•	•	•	•
	文政 8 年	1825 年		•	•	•	• 川越杉原町より出火し、被災区域は六軒町から砂新田までに及ぶ	•	•
	文政 12 年	1829 年		•	•	•	• 川越城下に大火が発生し、侍屋敷 362 戸、町在家 249 戸が焼失	•	•
	天保 2 年	1831 年		•	•	•	•	• 早船による人の輸送を開始し、川越街道の宿場等の利用者が減る	•
	天保 7 年	1836 年		• 幕命により、領内に国絵図の新規調製を令示する	•	•	•	•	•
	天保 8 年	1837 年		• 米国船モリソン号が浦賀に来航し、浦之郷陣屋詰の川越藩兵が出動する	•	•	•	•	•
	天保 10 年	1839 年	•	•	•	•	• 宿場との争論に示談する • 早船に新規参入する河岸場が増える • 出居仕衆（近隣の村出身船持ち船頭）が五河岸の船問屋の輸送を担う	•	
	天保 12 年	1841 年	松平（越前）家 松平斉典 1841～1850 年 170,000 石	• 松平斉典が 2 万石の加増を受け、川越藩が最大の 17 万石となる	•	•	•	•	•
天保 13 年	1842 年	• 川越藩、相州海岸警備を命じられる • 川越藩、相州警備のため、領内へ百石につき三匁二分の高懸金を課す	•	•	•	•	•	•	

時代	和暦	西暦	川越城址				城下町	舟運	川越市内の主な出来事他	
			藩主、在城年代、石高、役職	川越城・本丸御殿	三芳野神社	初雁公園及び周辺				
江戸	天保14年	1843年		<ul style="list-style-type: none"> 三浦半島観音崎の台場が川越藩に引渡され、相州警備の第一陣が川越を出立する 川越藩、将軍家慶の日光社参の期間中、江戸湾の見回り警備を行う 	•	•	•	•	•	
	弘化2年	1845年		<ul style="list-style-type: none"> 米国船メルカトル号、房州沖に来航し、川越藩の船などが出動する 	•	•	•	•	•	
	弘化3年	1846年		<ul style="list-style-type: none"> 二ノ丸住居台所付近より出火し、藩主御殿、武具方役所などを焼失 米国軍艦が相州沖に来航し、警備のため松平斉典が観音崎陣屋で藩兵を指揮 	•	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 川越町人より、川越藩の公用荷物の運搬を大仙波村地内(後の仙波河岸)で行いたいとする願書を川越藩へ提出 	•	
	弘化4年	1847年		•	<ul style="list-style-type: none"> 三芳野天神社の柿葺を瓦葺に改造 	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 仙波東照宮で大規模な修理を実施 	•	•
	嘉永元年	1848年		<ul style="list-style-type: none"> 川越城本丸に約2年かけて、計16棟の建物が廊下で結ばれた巨大な御殿が再建される 本丸御殿は城主の住まいであり、政務を行う場でもあり、来客をもてなす場でもあった 	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 高沢町名主の井上勘兵衛が川越町人を代表して、江戸箱崎町の積荷問屋の権利を購入し、五河岸がけに頼らずに安定した輸送経路の確保に努める 	•	•	
	嘉永2年	1849年		<ul style="list-style-type: none"> 英国軍艦マリナー号が来航、川越藩観音崎陣屋から出動し、浦賀港へ引入れる 	•	•	•	•	•	
	嘉永3年	1850年	松平(越前)家 松平典則	<ul style="list-style-type: none"> 松平典則が川越藩主となる 	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 川越氷川神社の本殿が建てられる 	•	•	
	嘉永4年	1851年	1850~1854年 170,000石	<ul style="list-style-type: none"> 川越藩、相模の警備地において練兵を行う 	•	•	•	•	•	
	嘉永6年	1853年		<ul style="list-style-type: none"> 川越藩、相州海岸警備を免除され、江戸湾一之台場警備を信渡される 	•	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 早船の運航をめぐり、扇河岸と上・下新河岸が争い、扇河岸の早船5艘のうち3艘の運航で示談 五河岸の出居仕衆であった船持ち船頭の福岡村吉五郎は、川越藩の御用荷物の輸送を担当 吉五郎に対抗して、五河岸側は無料での輸送や武器の荷上げ場の提供を川越藩に申し出る 	•	
	嘉永7年 安政元年	1854年	松平(越前)家 松平直侯 1854~1861年 170,000石	<ul style="list-style-type: none"> 松平典則、家臣へ藩財政の困窮を訴え、財政を公表 松平直侯が川越藩主となる 幕府、川越藩に江戸湾一之台場を引渡す 	•	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 川越五河岸問屋16名より川越藩荷物の無賃輸送を願い出る 川越藩の武器輸送の荷上げばとして上・下新河岸地内を選定 	•	

時代	和暦	西暦	川越城址				城下町	舟運	川越市内の主な出来事他
			藩主、在城年代、石高、役職	川越城・本丸御殿	三芳野神社	初雁公園及び周辺			
江戸	安政 2 年	1855 年		• 安政大地震により、富士見櫓が崩れる	•	•	•	• 江戸箱崎町の積荷問屋の権利をめぐる争論、それぞれの積荷の持ち場などが取り決められる	•
	安政 5 年	1858 年		• 松平直侯、藩財政窮乏を幕府に訴える	•	•	•	•	•
	安政 6 年	1859 年		• 川越藩警備の台場にロシア人が上陸、以後の取締りについて幕府の支持を仰ぐ	•	•	•	• 扇河岸 22 艘、上新河岸 22 艘、牛子河岸 4 艘、下新河岸 21 艘、寺尾河岸 11 艘、その他 2 艘、合計 82 艘の船が川越五河岸で運航	•
	文久元年	1861 年	松平（越前）家 松平直克 1861～1866 年 170,000 石 政事、総裁職	• 松平直克が川越藩主となる	•	•	•	•	•
	文久 2 年	1862 年		• 松平直克、文武振興・富国強兵のため藩政改革を行う	•	•	•	•	•
	元治元年	1864 年		• 川越藩、江戸湾二・五の台場警備を命じられる・幕府、川越藩に非常の際小仏峠警守を命じる・川越藩兵、水戸天狗党討伐のため八王子などに出兵	•	•	•	•	•
	慶応元年	1865 年		• 川越藩、川越城の地理、建物などを幕府に調査録上する	•	•	•	•	•
	慶応 2 年	1866 年		松井（松平）家 松井康英 1866～1869 年 80,442 石 老中	• 武州世直し一揆が川越城下に迫り、藩兵がこれを防御 • 松平直克、京都警衛を命じられる • 松平大和家前橋移城に伴い、建物などを幕府に調査録上する • 松平康英が川越藩主となる	•	•	•	•
	慶応 3 年	1867 年	• 川越藩、京都警衛を免除される • 西大手門外に藩校長善館を設ける		•	•	•	•	•

時代	和暦	西暦	川越城址				城下町・中心市街地	舟運	川越市内の主な出来事他	
			藩主、在城年代、石高、役職	川越城・本丸御殿	三芳野神社	初雁公園及び周辺				
明治	明治元年	1868年		<ul style="list-style-type: none"> 川越藩、大総督府の命により、下野国鍋掛液に出兵する史料綱要 					<ul style="list-style-type: none"> 明治政府は国民に対して正式に土地の私有を認める 明治以前は居屋敷年貢が課せられていたが、市街地(武家地と町人地)の統一的な税負担を検討 	
	明治2年	1869年	松井(松平)家 松井康載 1869~1871年 80,442石 川越藩知事	<ul style="list-style-type: none"> 川越藩は明治政府に、城内の破損箇所は修復せずに取り払いたい旨の申し立てを行う 川越藩、先の大火のため常陸国平潟陣屋詰藩士の内、定詰以外の者の川越帰還を願い出る 松平康載が川越藩主となる 川越城が破損し、この日川越藩は城郭を台場型に改修することを請う 			<ul style="list-style-type: none"> 川越城下に大火が発生し、家中屋敷482戸・町在家420戸が焼失 仙波東照宮は、諸領一般上地の令により社領を奉還し、逓減割となり、神仏分離令により喜多院の管理を離れる 	<ul style="list-style-type: none"> 版籍奉還 		
	明治3年	1870年		<ul style="list-style-type: none"> 川越城郭の廃棄と開墾を許可される 川越城の大規模な解体始まる 城の建造物は本丸御殿の一部と城門を残すのみとなる 						
	明治4年	1871年		<ul style="list-style-type: none"> 本丸御殿は県庁として使用 					<ul style="list-style-type: none"> 廃藩置県に際して川越県が成立し、まもなく入間県となる 	
	明治5年	1872年		<ul style="list-style-type: none"> 本丸の家老詰所が福岡村(現ふじみ野市)の星野家に払い下げられる 旧川越城本丸御殿に公廨(官庁)が置かれる 			<ul style="list-style-type: none"> 代官町の土手がとれる、壬申地券発行の達 		<ul style="list-style-type: none"> 入間県に裁判所が置かれる 入間県の公廨(官庁)となる 	
	明治6年	1873年				<ul style="list-style-type: none"> 旧家老屋敷に三芳野学校を開設 			<ul style="list-style-type: none"> 入間県を廃し熊谷県を置く 入間裁判所を熊谷県に移す 地租改正 太政官布告 	
	明治8年	1875年						<ul style="list-style-type: none"> 新河岸川の全ての船問屋が内国通運会社(日本通運株式会社)の傘下に入る 		
	明治9年	1876年		<ul style="list-style-type: none"> 富士見櫓跡に木曾御嶽山の遥拝所を設置 						
	明治12年	1879年		<ul style="list-style-type: none"> 旧川越藩士により「郷友会」が設立される 					<ul style="list-style-type: none"> 仙波河岸の開墾が始まる 	<ul style="list-style-type: none"> 入間高麗郡役所が川越に置かれる
	明治13年	1880年						<ul style="list-style-type: none"> 扇河岸より川越町に近い大仙波村地内に仙波河岸を新設し、川越町の発展に大いに貢献 		

時代	和暦	西暦	川越城址				城下町・中心市街地	舟運	川越市内の主な出来事他
			藩主、在城年代、石高、役職	川越城・本丸御殿	三芳野神社	初雁公園及び周辺			
明治	明治 14 年	1881 年		<ul style="list-style-type: none"> 人間高麗郡立中学校が旧川越城正殿で開校する（明治 19 年まで） 陸軍参謀本部が作成した「関東実測図川越城乃市街」に富士見櫓跡方台地形の標高 26.4m、本丸跡 18.6m、平面図に富士見櫓跡地の標高 26.2m と記録 	•	<ul style="list-style-type: none"> 地租改正事務局閉鎖 	•	<ul style="list-style-type: none"> 蒸気船飛鳥丸が東京～新河岸間の通行が許可 	•
	明治 15 年	1882 年		•	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 川越杉原町で火災、17、8 戸が類焼する 	•	•
	明治 17 年	1884 年		•	•	•	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 川越治安裁判所設置
	明治 19 年	1886 年		•	•	•	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 太政官布告廃止
	明治 20 年	1887 年		•	•	<ul style="list-style-type: none"> 土塁と堀の跡地は畑や水田に変更 	•	•	•
	明治 21 年	1888 年		•	•	•	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 川越電信局が開局する
	明治 22 年	1889 年		•	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 高沢町大火 120 戸消失 	•	<ul style="list-style-type: none"> 町村制施行に伴い川越町及び 13 か村が成立 区政を採用し、各区の区域を定める
	明治 26 年	1893 年		•	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 川越大火で 1,300 戸消失する、全焼土蔵 916、半焼土蔵 237 万丈、正木屋、足立屋（呉服）小林佐平が蔵造りを上棟 	•	<ul style="list-style-type: none"> 川越・国分寺間の川越鉄道の仮免状が下付される 川越鉄道線路の実測開始
	明治 27 年	1894 年		•	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 足立屋（米穀）が蔵造りを上棟 	•	•
	明治 28 年	1895 年		•	•	•	<ul style="list-style-type: none"> 餅亀屋、山仁、熊重が蔵造りを上棟 	•	<ul style="list-style-type: none"> 川越鉄道の川越・国分寺間が開通する
	明治 30 年	1897 年		<ul style="list-style-type: none"> 富士見櫓跡に新たに御嶽神社社殿を建造 	•	•	•	•	•
	明治 32 年	1899 年		<ul style="list-style-type: none"> 埼玉県第三尋常中学校の入学試験と始業式を本丸御殿で行う 人間郡公会所（旧本丸御殿）第三尋常中学校の仮事務所設置 	•	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉県第三尋常中学校（現川越高等学校）が設立 	•	•	•
	明治 34 年	1901 年		•	•	<ul style="list-style-type: none"> 初雁幼稚園創立 埼玉県第三尋常中学校（現川越高等学校）が埼玉県立川越中学校に改名 	•	•	•
明治 38 年	1905 年		•	•	<ul style="list-style-type: none"> 川越小学校が現在地に移転新築 	•	•	•	

時代	和暦	西暦	川越城址				城下町・中心市街地	舟運	川越市内の主な出来事他
			藩主、在城年代、石高、役職	川越城・本丸御殿	三芳野神社	初雁公園及び周辺			
明治	明治 39 年	1906 年		•	•	•	•	• 川越全町に電燈が点灯する • 川越電気鉄道、川越・大宮間の電車運行を開始	
	明治 40 年	1907 年		•	•	•	• 約 100 軒の蔵造りがたちならぶ	•	
	明治 43 年	1910 年		•	•	•	•	• 大水害のため新河岸川が氾濫 • 下水道設置調査委員会を設置	
大正	大正元年	1912 年		•	•	• 川越町役場新庁舎が落成	•	•	
	大正 3 年	1914 年		•	•	•	•	• 東上鉄道が池袋・川越間の運転開始 • 川越町停車場開設 物資の流通から人の流れまで大きく変化	
	大正 3 年	1914 年		•	•	•	•	• 鉄道駅はいずれも城下町の中心から外れた南部の郊外に建設、駅周辺の市街地化が進行し、商業的中心の二極化がその後の都市形成に大きな影響を与える	
	大正 4 年	1915 年		•	•	•	•	• 東上鉄道が川越西町停車場を開設	
	大正 5 年	1916 年		• 富士見櫓跡西側頂上近く石段二十段建設	•	•	•	•	
	大正 6 年	1917 年		•	•	• 入間郡公会所が暴風雨のため破損、雨漏防止工事施工	•	•	
	大正 7 年	1918 年		• 入間郡が郡公会所（旧川越城正殿）を専売局淀橋専売支局に煙草工場として貸与（昭和 7 年まで） 入間庁舎竣工	•	•	•	•	
	大正 8 年	1919 年		• 富士見櫓跡に石段五十段建設	•	•	•	• 都市計画法及び市街地建築物法が公布 • 史蹟名勝天然記念物保存法公布	
	大正 9 年	1920 年		• 川越中学校・川越尋常高等食学校・川越北尋常小学校・初雁幼稚園などの教育施設、入間郡公会所・入間郡役所・川越町役場・川越警察署などの公共施設が設置	•	•	•	• 東上鉄道（株）が東武鉄道（株）に合併し、東上線となる	
	大正 10 年	1921 年		•	•	•	•	• 新河岸川の改修工事開始	
	大正 11 年	1922 年		•	• 三芳野天神社の瓦葺を銅板葺に改修	• 臨時郡会議で、本丸御殿の土地・建物を川越町に売却することが議決	•	• 川越町と仙波村が合併して県下で最初の市制を施行 • 西武鉄道（株）が川越鉄道を合併し西武線となる	
	大正 12 年	1923 年		• 関東大震災により富士見櫓跡の社殿崩壊した被害の復旧工事実施	•	•	•	• 川越市などの 1 市 10 町について都市計画の調査実施を決定	

時代	和暦	西暦	川越城址				城下町・中心市街地	舟運	川越市内の主な出来事他
			藩主、在城年代、石高、役職	川越城・本丸御殿	三芳野神社	初雁公園及び周辺			
大正	大正 13 年	1924 年		•	•	•	•	• 第 1 回川越市都市計画委員会開催	
	大正 14 年	1925 年		• 川越城址が埼玉県指定史跡となる	• 三芳野天神社の銅板葺完成	•	•	• 新河岸川舟運定期的早舟廃止	
	大正 15 年	1926 年		•	•	•	•	• 川越市内下水道工事に着手（昭和 2 年 3 月完了）	
昭和	昭和 2 年	1927 年		• 市立川越商業高校郭町（二の丸跡）に新築落成、新校舎に移転	•	•	•	•	
	昭和 3 年	1928 年		•	•	•	•	• 5 か年継続事業として川越地区道路計画に着手	
	昭和 4 年	1929 年		•	•	•	•	• 川越耕地整理組合設立	
	昭和 5 年	1930 年		•	•	•	•	• 耕地整理着工	
	昭和 6 年	1931 年		•	•	•	• 新河岸川舟運に通船停止を県令発表	•	
	昭和 7 年	1932 年		•	•	•	•	• 専売局淀橋支局川越分工場が閉鎖	
	昭和 8 年	1933 年		• 川越城本丸御殿が川越地方武道奨励会の修練道場となり、「初雁武徳殿」と名称を改める	•	•	•	• 県下初の都市計画法適用都市となる • 志義町より新田町にいたる新道路、中央通り完成開通	
	昭和 12 年	1937 年		•	•	•	•	• 赤間川を新河岸川につなぐ下水工事開始	
	昭和 13 年	1938 年		•	•	• 以降川商グラウンド（現在の初雁球場）を整備	•	• 赤間川を新河岸川につなぐ下水工事完成	
	昭和 14 年	1939 年		•	•	•	•	• 田面沢村を合併	
	昭和 16 年	1941 年		•	•	•	•	•	
	昭和 19 年	1944 年		• 川越青年学校の本校舎を初雁武徳殿に置く	•	• 初雁実修女学校が併設されるが昭和 22 年 6・3 制実施に伴い両校は廃止	•	•	
	昭和 22 年	1947 年		• 初雁武徳殿が川越市立川越第二中学校（現初雁中学校）の仮校舎として供用開始	•	• 川越市立川越第二中学校設立	•	•	
	昭和 23 年	1948 年		•	•	• 川越市立第二中学校 3 年生の校舎として利用 • 埼玉県立川越中学校から埼玉県立川越高等学校へ改称	•	•	
	昭和 25 年	1950 年		•	•	• 川越市営プール開場 • 失業対策事業として初雁グラウンド整備工事を開始	• 喜多院（6 棟）と東照宮（6 棟）が国指定重要文化財に指定	• 文化財保護法公布	
昭和 26 年	1951 年		•	•	• 初雁公園都市計画決定	•	•		
昭和 27 年	1952 年		• 富士見櫓跡の御嶽神社拝殿屋根修理	•	• 初雁球場完成し、供用開始	•	•		
昭和 28 年	1953 年		•	•	• 川越第二中学校新校舎落成、初雁中学校へ改名	•	•		

時代	和暦	西暦	川越城址				城下町・中心市街地	舟運	川越市内の主な出来事他
			藩主、在城年代、石高、役職	川越城・本丸御殿	三芳野神社	初雁公園及び周辺			
昭和	昭和 29 年	1954 年		•	•	• 郭町浄水場の水道供給開始	•	•	•
	昭和 30 年	1955 年		•	• 三芳野天神社が江戸初期の代表的な権現造の社殿として埼玉県指定文化財に指定	•	•	•	• 周辺 9 か村を合併
	昭和 31 年	1956 年		•	•	•	• 川越氷川神社本殿と八坂神社社殿が県の重要文化財に指定	•	• 都市計画区域指定を変更 • 都市公園法制定
	昭和 33 年	1958 年		•	• 三芳野神社が市指定史跡に指定	•	•	•	•
	昭和 35 年	1960 年		• 八坂神社解体修理し、江戸城二の丸東照宮拝殿と確定	•	• 川越商業高等学校が旭町に新校舎落成、郭町より移転	•	•	• 自治省が川越市を町名地番整理の実験都市に指定、川越市が都市計画面を公表
	昭和 36 年	1961 年		•	•	•	•	•	• 町名地番整理開始
	昭和 37 年	1962 年		•	•	•	•	•	• 首都圏整備法により川越市は市街化開発区域に指定
	昭和 38 年	1963 年		•	•	•	• 仙波東照宮修理完成	•	•
	昭和 39 年	1964 年		•	•	• 市民会館開館 • 川越市立特別支援学校開校	•	•	•
	昭和 40 年	1965 年		•	•	•	•	•	• 川越東バイパス山田 - 大宮街道接続完成
	昭和 41 年	1966 年		• 台風で富士見櫓跡の御嶽神社拝殿、石段、樹木等大きな被害を受け復旧工事实施	•	•	•	•	•
	昭和 42 年	1967 年		• 川越城本丸御殿が埼玉県指定有形文化財に指定される • 川越城本丸御殿修理委員会が発足し、修復工事に着手	•	•	•	•	•
	昭和 44 年	1969 年		•	•	•	•	•	• 国道 16 号線の東バイパス（南環状線）完成
	昭和 46 年	1971 年		•	•	•	• 大沢家の建物が国指定重要文化財に指定	•	•
	昭和 47 年	1972 年		• 川越市が富士見櫓跡の境内の整備工事实施	•	• 川越市役所新庁舎完成	• 旧万丈の店蔵を市が買収	•	•
	昭和 48 年	1973 年		•	•	• あげぼの・ひかり児童園開設	•	•	•
	昭和 49 年	1974 年		•	•	• 川越武道館開館	•	•	• 川越環状線が開通（市街地の完全バイパス）
	昭和 59 年	1984 年		• 川越城本丸御殿の補修工事	•	•	•	•	•
	昭和 60 年	1985 年		•	• 三芳野天神社の屋根応急修理	•	•	•	•
昭和 62 年	1987 年		• 川越城の家老詰所が発見される（現ふじみ野市・星野家）	•	•	•	•	•	
昭和 63 年	1988 年		• 川越城の家老詰所が移築復元される	•	•	•	•	•	

時代	和暦	西暦	川越城址				城下町・中心市街地	舟運	川越市内の主な出来事他
			藩主、在城年代、石高、役職	川越城・本丸御殿	三芳野神社	初雁公園及び周辺			
平成	平成元年	1989年		•	• 三芳野天神社の修理工事着工	•	•	•	
	平成2年	1990年		• 旧二ノ丸跡に川越市立博物館開館	•	•	•	•	
	平成3年	1991年		• 家老詰所が埼玉県指定有形文化財に追加指定となり、指定名称が「川越城本丸御殿及び家老詰所」となる	• 三芳野天神社の修理工事完了	•	•	•	
	平成10年	1998年		•	•	•	• 埼玉県川越市幸町の全部、元町1丁目、元町2丁目及び仲町の各一部の蔵造りの町並みを川越市川越伝統的建造物群保存地区として選定	•	
	平成11年	1999年		• 宗教法人木曾御嶽大協会より川越市へ富士見櫓跡地を寄付し、社殿は北側へ移動 • 富士見櫓跡の実測調査で標高25.38mを記録 • 富士見櫓跡の地質調査を実施	•	•	• 伝建地区を都市計画決定	•	
	平成12年	2000年		• 富士見櫓跡で発掘調査を実施	•	•	•	•	
	平成14年	2002年		• 富士見櫓跡の地質調査としてボーリング調査を実施 • また、発掘調査を3回実施	•	• 川越市立美術館開館	•	•	
	平成16年	2004年		• 川越城本丸御殿修理検討委員会設置	•	•	•	• 景観法制定	
	平成20年	2008年		• 川越城本丸御殿修理委員会が発足し、保存修理工事に着手 • 中ノ門堀跡整備事業実施	•	•	•	•	
	平成22年	2010年		• 川越城本丸御殿保存修理工事竣工	•	•	•	•	
平成29年	2017年		• 本丸御殿の一部、中ノ門堀跡、三芳野神社の境内、富士見櫓跡と周辺の遺構のみ現存 • 富士見櫓跡は、二段の段丘から成る方台状の地形を残し、旧本丸曲輪の南西隅に位置する • 櫓跡の南側に堀跡、北側に土塁の一部が残り、旧川越城内では唯一曲輪の面影を感じさせる空間	•	•	•	•		